

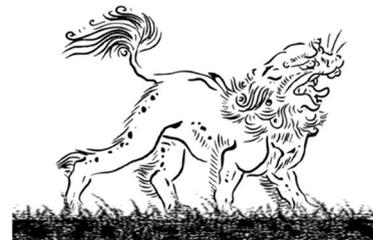


FSSI
Research Report

Kanazawa University

2022. 3

Topic



2022年度 科研費の採択傾向 ～採否を分ける要素は何か？～

本年度の科学研究費助成事業の交付内定が去る2月28日に日本学術振興会より行われました。本学からは248名の方が採択されました。前回に引き続き、本号では本年度の科研費の採択傾向について報告します。

本学の採択率

前回のレポート（リンク：[2022年度 科研費の採択結果](#)）でも記載しましたが、基盤研究(A)、(B)、(C)、若手研究の4種目についての本学の採択結果は以下のようになっています（図1）。

応募数：657件（前年度696件）

採択数：248件（前年度292件）

採択率：37.7%（前年度42.0%）



図1. R4年度科学研究費助成事業の種目別の採択率

部局別の応募件数および採択率

部局別の応募件数と採択率を図2に示します。なお、図2では応募件数が15件以上の部局のみを表示しています。応募件数は附属病院が最も多く、次いで医学系、保健学系となっています。図2には全ての部局名を表示していませんが、部局間で採択率は非常に大きな差（数十%の差）がありました。

一方で、国内全体の採択率は審査区分では大きな差はありません（リンク：[2021年度審査区分別の採択数](#)）。例えば、基盤研究(C)の新規分の場合、小区分番号02050（文学一般関連）の採択率は30.4%、小区分番号28020（ナノ構造化学関連）は26.2%、小区分番号19020（熱工学関連）は26.9%となっています。

では、本学の科研費の採択、不採択を分ける要素には何があるのでしょうか。

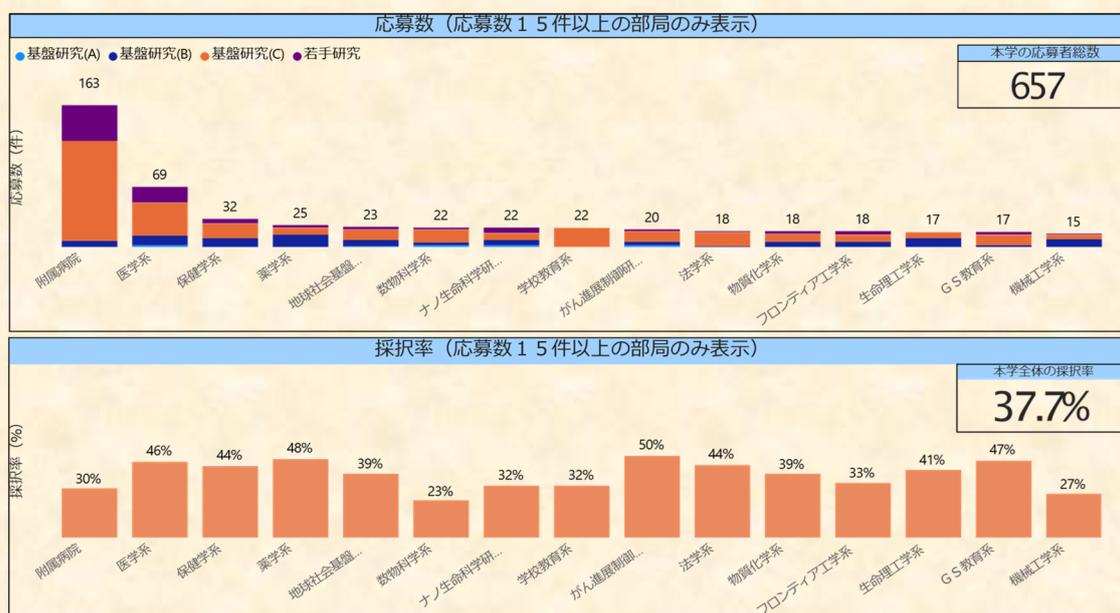
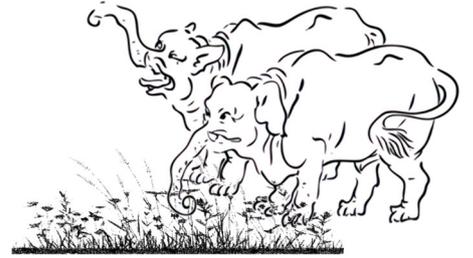


図2. R4年度科学研究費助成事業の部局別の応募数および採択率

Topic



業績 (FWCI、論文数) との関係性

研究種目別の本学の採択者と不採択者の FWCI を表 1 に示します。

「FWCI (Field-Weighted citation impact)」は論文の影響力を示す指標の一つです。個々の論文の被引用度合を、同じ出版年、同じ分野、同じ文献タイプで比較した数値になります。数値が 1 の場合は、その論文は世界平均と同じ被引用度合であることを示しています。1 以上では、世界平均よりも高いことを示しています (リンク: [論文の影響力の調べ方](#))。この FWCI を用いることで論文そのものだけでなく、その論文を出版した研究者の業績指標ともなりえます (ただし、研究者数が相対的に少ない研究分野は FWCI が高くなる等の欠点もあります)。

図 3 のように基盤研究 (B) の採択者の FWCI の平均値は 1.25 であり、不採択者は 0.82 です。若手研究ではそれぞれ 1.10 および 0.81 となっており、採択者の FWCI が高い傾向にありました。つまりは、基盤研究 (B)、(C) では論文の影響力 (被引用度合) が採択の可否に影響していると考えられました。

一方で、基盤研究 (C) では FWCI の平均値は、採択者が 0.90、不採択者が 0.85 となっており、差が小さい傾向にありました。ただ、図 3 にあるように基盤研究 (C) においても FWCI が高い研究者は採択されている方が多い傾向にあります (図 3 の赤枠)。

科研の採否には論文の影響力 (被引用度合) が関係していると考えられますが、どの研究種目においても研究業績 (FWCI、論文数) が同程度の研究者間で採否が分かれている事例が多く見受けられます (図 3 の緑枠)。

では、業績が同程度の場合、何が科研の採否に影響しているのでしょうか。

表 1. 研究種目別の FWCI の平均値

研究種目別のFWCIの平均値		
研究種目名	FWCIの平均値	
	採択者	不採択者
基盤研究(B)	1.25	0.82
基盤研究(C)	0.90	0.85
若手研究	1.10	0.81

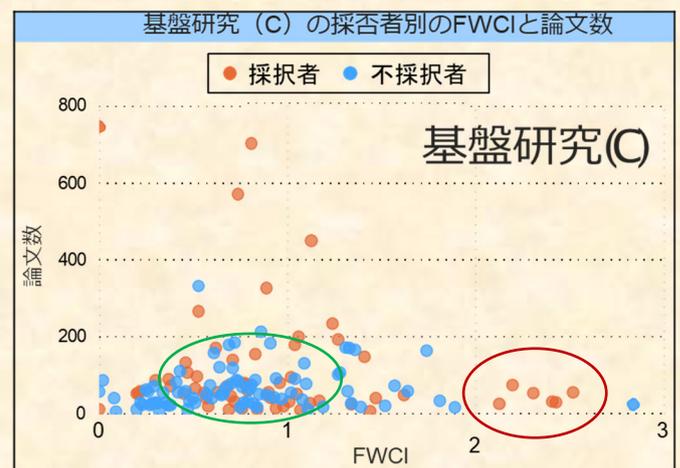


図 3. 基盤研究 (C) の採否者別の業績

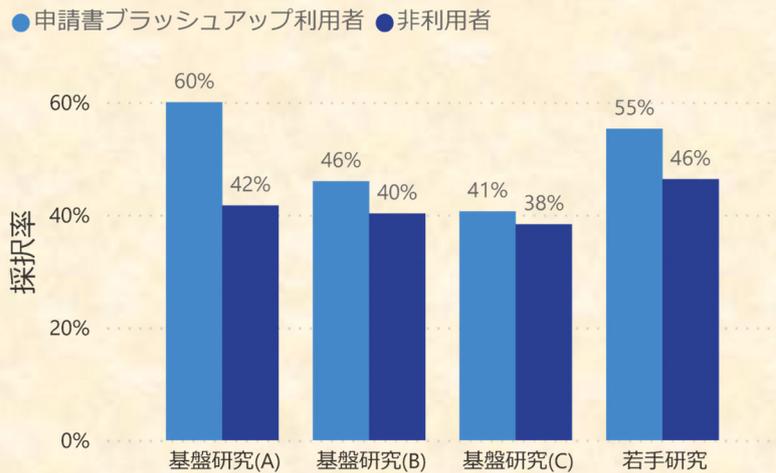


図4. 昨年度の FSSI による申請書ブラッシュアップ支援の効果

申請書の記載方法との関係性

科研の採否を分ける要素は、業績の他にも、申請する区分の選択や、研究のトレンド等の様々な要素が関係してくると考えられます。その要素の一つとして「申請書の記載方法」が挙げられます。

当機構 (FSSI) による申請書ブラッシュアップの効果について図4に示します。なお、図4の数値は本年度 (集計中) ではなく昨年度の数値になります。

図4のように、どの研究種目においても、非利用者と比較して、ブラッシュアップ利用者の採択率は高い傾向にあります。種目によって効果が数%と小さい場合もありますが、採択率上位の研究機関である東京大学 (R3 年度 採択率 40.1%、全国 13 位)、京都大学 (R3 年度 採択率 39.6%、全国 15 位)、東北大学 (R3 年度 採択率 36.2%、全国 28 位) の採択率の差が数%であることを考慮するとブラッシュアップの効果の高さが分かるかと思えます。(リンク: [R3 年度の上位 30 機関の新規分の採択率](#))

特に、業績が同程度の場合には、「申請書の記載方法」も採否を分ける重要な要素の一つになりうると考えられます。

申請書のブラッシュアップ

毎年 URA による申請書の添削を毎年実施しています。第三者からの視点で申請書が改善できる良い機会ですので、是非ご利用を検討してみてください。参考リンク先は [こちらから](#)。支援の詳細は 6 月頃に改めてレポートさせていただきます。

特に、本学独自の 研究費支援である戦略的研究推進プログラムは例年提出期限が 6 月 (予定) と早いため注意が必要です。

前回の戦略的研究推進プログラムの一覧

- 大型中型支援 (100 万円/1 年間)
- ステップアップ支援 (150 万円/1 年間)
- 研究基盤支援 (30 万円又は 50 万円/1 年間)
(募集は例年 4, 5 月頃に開始されます。)

【お問合せ先】

金沢大学先端科学・社会共創推進機構 (FSSI)・池田

✉ : kanazawa-fssi-ir@kanazawa-fssi.com

Report Archive :

<https://kanazawa-fssi.com/ir-analysis/>

桜が開花し始めています。

(2022 年 3 月 30 日撮影)

